

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol.47 2024年 冬号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「フッシーくん」

特集「君たちはどう鳥を見るか」
とびしまんちゅ流鳥見のススメ⑥「和名の犬問題」

「ウソ（亜種アカウソ）」1月 山形県酒田市 撮影：土屋様

君たちはどう



鳥を見るか

吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』は、昭和初期の日本の子ども達に、倫理や教養を学ぶ書籍として出版され、現在再び注目されています。

さて、バードウォッチングは万人の趣味ではありませんが、全ての人に広く開かれた気軽に参加できる趣味の代表です。

“カッコいい・かわいい・希少だから・珍しいから”など、見たい理由は人それぞれあると思います。

これから野鳥を見始める人も、あまり難しく構えずに楽しく鳥たちを見ることができるようになれば、もっと“友だち”になれると思います。「どう鳥を見るのか」は“君たち”の自由ですが、ルールとマナーは守って楽しんでください。

参考：『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 『弓具の雑学事典』日本武道学会 『現代弓道講座』雄山閣 『沈黙の春』レイチェル・カーソン

鳥を
見ることで
作られる文化



人間と鳥たちは、昔から文化的に深いつながりがあります。我が国では古事記にある仁徳天皇の章、日本書紀の“金鷲”、また家紋にも鳥の意匠が用いられたりしています。世界でもギリシア神話の主神ゼウスの象徴がイヌワシであるとされ、古代エジプトでは死後の世界をつかさどる、ベンヌというアオサギが崇拝されていました。飛行や捕食行動、愛嬌のある姿に、親しみや畏敬の念をもって見ていたのではないのでしょうか。

日本でもサギ類は神の使いとして、神社の神紋になっています。
(アオサギ 撮影：萩田様)

鳥を見ることで知る羽毛の役割

鳥は「クチバシ・羽毛・趾」など、他の生物にはあまり見られない特徴を持っています。その3つの部位を観察することで、おおよその生態を知ることができます。幕末の庄内藩士・松森胤保が『両羽博物図譜』に記しています。その中でも鳥にしかないものが羽毛です。羽毛にはそれぞれの部位に役割があり、保温・飛行・コミュニケーションなどに使います。飛行は丈夫な羽毛を集合させた「翼」の部位による特徴を巧みに利用した能力です。翼の「初列風切羽」は体から最も離れた外側の10枚で、前進する力を生むための羽です。そのため、一枚一枚がプロペラのようにねじれのある作りとなっています。「次列風切羽・三列風切羽」は体に近い羽で浮き上がる力を得るための羽です。そしてもう一つが「尾羽」ですが、この羽は羽軸が比較的まっすぐであり、鳥たちもブレーキとしても使っている事から、厚みもあり大変丈夫です。弓矢はこの尾羽を使った矢が最良品とされ、その剛性によって回転を生み矢飛び（直進性）が良いと言われています。



「鎬矢(かぶらや)」東京国立博物館所蔵
室町時代の『今川大双紙』には「トビ、フクロウ、アオサギ、ニワトリ」は矢羽根として使用を忌むべき鳥類として記載されています。

鳥を見ることでまもられる環境

春にけたたましく囀る「コマドリ」
(撮影: 齋藤修氏)



レイチェル・カーソンは、冬から春に移り変わる季節、本来であれば多くの鳥たちの囀りにでぎやかになるはずが、おそろしいほど静寂に包まれていることに気づき、環境の変化を感じました。その後DDTをはじめとする化学薬品の使用禁止を訴え、世界に環境保護思想が広がるきっかけとなりました。



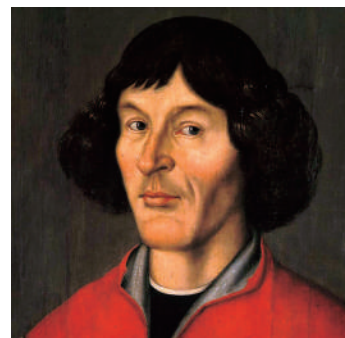
引用U.S. Bureau of Fisheries

レイチェル・カーソン(1907-1964) アメリカの環境保護活動家。著書『センス・オブ・ワンダー』『沈黙の春』

レイチェル・カーソン(1907-1964) アメリカの環境保護活動家。著書『センス・オブ・ワンダー』『沈黙の春』

“コペルニクス的”野鳥観察のすすめ

現代の地球では温暖化が指摘されており、これまでの常識とはちがう現象が起こっています。越冬地や繁殖地の移動・変化に加え、鳥インフルエンザなど慌ただしく野鳥たちの世界も変化しているようです。環境変化に気づくためにも、普段の暮らしで目にしやすい野鳥たちを意識的に観察し、コペルニクスのように疑問に感じたら調べてみることをお勧めします。新しい発見や、変化の兆候が見えてくるかもしれません。



コペルニクス肖像

ニコラウス・コペルニクス(1473-1543) ポーランドの天文学者で、その時代に当たり前とされていた「天動説(宇宙の中心は地球であり、太陽などの惑星が地球の周辺を公転しているという説)」ではなく「地動説」であることを証明した。

庄内の動物情報コーナー

これまでにない程猛暑日が連続した今年の庄内地域。フィールドでの活動が危険に感じるほどの高気温でした。全国的にも米をはじめとして農作物への影響も甚大だったことが報じられています。皆さんのお住いの地域の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2023/6月「サンコウチョウ」鶴岡市
長い尾羽のサンコウチョウ。青いアイリングが目立って
撮影：土屋様



2023/7月「ハチクマ」鶴岡市
ディスプレイ飛行をするハチクマ。そんなに垂直に翼を上げたら飛べなくなるが・・・
撮影：渡会様



2023/9月「ノウサギ」酒田市
藪の中へ脱兎の如く逃げるノウサギ。しかし本当のウサギなので”如く”は必要なくて、これはただの”脱兎”さん。
撮影：横山様



2023/10月「ゴジュウカラ」酒田市
垂直以上の木の肌を伝って降りてくるゴジュウカラ。まさかこんな市街地で観察できるなんてラッキー！いつもの散歩がわくわくする時間になりますね。
撮影：渡会様



2023/10月「ウラギンシジミ」酒田市
南から北へ分布域を拡大するシジミチョウのなかま。ちょっと大振りです。オスは表側がオレンジ色の翅が特徴です。止っている物体が、このチョウにとっては御馳走という事で、お食事中の方がおられましたらご容赦ください。
撮影：たちん様



2023/10月「コマドリ」酒田市
庄内地域は4月下旬からGW前後に通過していきます。「ヒヒ〜ん」というビブラートを効かせた鳴き声は見事で、日本三鳴鳥に数えられます。ただし秋はご覧の通りおとなしくなって越冬地へ戻ります。流しのミュージシャンの営業終わりの姿。
撮影：渡会様



2023/11月「ダイサギ」鶴岡市
白い鳥で編隊飛行をするのはガンやハクチョウだけではありません。なんとあのダイサギまでもが・・・
撮影：毛呂様



2023/11月「ホシガラス」酒田市
これまた市街地で！夏は山の上にいる鳥ですが、気まぐれで？
撮影：渡会様



2023/10月「ツキノワグマ」酒田市
今年はよく出没注意情報が出されたツキノワグマ。これも市街地付近で遭遇した個体です。
撮影：酒田市環境衛生課



2023/10月「アトリ」酒田市
冬を代表する小鳥アトリは、大きな群れと
なってやってきます。アトリにとって今年の木
の作柄はどうなのでしょう？
撮影：佐々木真一様



2023/10月「アオバト」酒田市
アオバトで有名な”こまたん”によれば、今
年生まれの若い個体だそうで、翼の雨覆い
と風切りの”縁どり”が明確に出ていること
が判別のポイントだそうです。
撮影：佐々木真一様



2023/10月「イヌワシ」酒田市
イヌワシが1羽で飛翔していたそうですが、
実は木の枝にもう1羽が止っていたそうで
す。求愛のシーズンに期待が膨らむ観察
情報でした。
撮影：川上様



2023/12月「ハクガン」酒田市
ガン類の群れの中に交じっているのはハウ
チョウ・・・ではなく、首の短いハクガン。雪と
同化して気づくのが難しい・・・しかし今シー
ズンは大きな群れで観察できたようです。
撮影：佐々木真一様



2023/12月「エナガ」鶴岡市
シマエナガばかりに注目していませんか？エ
ナガだって負けず劣らずという事がわかる写
真ですね。
撮影：とし様



2023/12月「ルリビタキ」鶴岡市
夏鳥なので、冬場は観察できないはずで
すが、暖冬のためか遅くまで居座る個体も観
察できているようです。こうした”期間限
定”が無くならないようにしたいものですね。
撮影：とし様

全国の動物情報コーナー



2023/12月「カムリカイツブリ」酒田市
酒田港の水面で1羽たゆたうカムリカイツ
ブリ。夏羽の名残は、まだ完全な冬の到
来とはなっていない証明か、個体差か？
撮影：佐藤様



2023/11月「チョウゲンボウ」神奈川県
チョウゲンボウですが、全体的に白っぽい印
象の個体ですね。白いと何故かかっこ良く
見えてしまうのは時代劇の見過ぎによって
刷り込まれた影響かも知れません・・・私だ
け？
撮影：こまたん様



2023/12月「ミサゴ」神奈川県
獲物を運ぶミサゴ。おや？魚から糸が垂れ
ていますね。どうやらルアーによって釣られた
魚のようです。食わずに捨てたようですが、
絡まったら一大事に。危険回避できるミサ
ゴで何よりでした。
撮影：こまたん様

イベント開催報告

〇月山ビジターセンター共催「深緑の羽黒山鳥見ング♪」

6月10日(日)月山ビジターセンターとの共催で、観察会「深緑の羽黒山鳥見ング♪」を開催しました。講師はネイチャーカメラマン太田威さんです。コロナウイルス明けのイベント開催という事もあり満員御礼となりました。

羽黒山旧参道を羽黒山山頂へ向けて歩きながら、初夏に訪れる夏鳥を探しました。旧道に入っすぐ、森の中から美しい鳴き声が聞こえたので、双眼鏡を向けると大きなスギの木にきれいなキビタキが止って囀っているところを観察できました。山頂までの坂道で、植物なども観察し、パークボランティアのガイドを聞きながら楽しくトレッキングできました。講師の太田さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。



〇昆虫採集&標本作り講座「鳥海山昆虫ラボ！」

7月22日(土)昆虫採集と標本作り講座「鳥海山昆虫ラボ！」を開催しました。講師は庄内昆虫同好会の皆さんです。

東北地方南部の梅雨明けとなった当日は晴れて、朝から気温がぐんぐん上昇し、絶好の採集日和となりました。午前中はフィールドでチョウやトンボ、バッタたちを捕獲、クワガタも何匹か捕まえることができました。保護者の皆さんも、子供達と一緒に頑張ってくれました。良い思い出になったのではないかと思います。午後からは標本作成講座を行いました。細かい作業ではありましたが、こちらも根気よく作ってくれたと思います。

猛禽類たちにとっても、昆虫は間接・直接のエサとなる生き物たちです。それを捕獲してしまう事について、様々な意見を持たれる方もいらっしゃると思いますが、鳥類だけを理解するのではなく、環境全体を理解することが、この先の本当の環境保護につながると思っています。今回も大変暑い中、多くの子供たち、保護者のみなさんに参加いただきありがとうございました。イベントを運営して下さったスタッフのみなさんもうありがとうございました。



〇夏休みクラフト体験教室

8月4日(金)~6日(日)・10日(木)~13日(日)までの期間、恒例の夏休みクラフト体験教室を開催しました。

ゴールデンウィークにも開催した草木染エコバッグ作りは、オリジナルの和柄を作製して染抜きます。春には展葉していなかった植物たちがラインナップされ、どんな色になるかとても楽しみでした。紺色や紫色、黄色になるもの、緑色の強いものが多かったです。媒染液につけた時の色の反応がとても面白くて、子供達は「色が変わった！」と驚きの声を上げていました。自然体験と科学実験を同時に学ぶことができ、子供達の反応も良かったです。寄木細工は、我が国が誇る木工芸品です。限られたパーツ、色の中で当館マスコットの「ワッシーくん」を作ってくれた人がいて驚きました。とても柔軟な発想に驚かされます。また参加者の笑顔も私たちの活動の励みになっています。参加してくれた皆さん、協力いただいたスタッフの皆さんありがとうございました。また来年の開催をお楽しみに！



○観察会「猛禽類の秋の渡りWEEK！」

9月19日(火)～24日(日)の6日間、「秋の渡りWEEK！」と題して、猛禽類の秋の渡り観察会を開催しました。猛禽類保護センターに近い山形県側の鳥海高原を観察定点として、連続で観察を試みようという試みです。しかし、開催初日から連続して悪天候が続き、ほぼウィークデーは観察記録が無い状況になってしまいました。

週後半は天候が回復し、多かつたとは言えませんが、パラパラと渡っていく猛禽類たちを観察することができました。鳥海山の尾根沿いからまっすぐに南に向かっていくサシバやハチクマたちを観察できました。

野生動物たちには当然、土曜・日曜・祝日は関係ないので、いつ飛ぶのかは天候と鳥次第であることを私たちも実感しました。鳥海イヌワシみらい館では引き続き秋の渡り観察を続けて行きたいと思います。



○見る！作る！鳥海山の野鳥とSDGs Part-2

月山ビジターセンター共催観察会「ハチクマを見送って蜜ろうそくを作ろう！」

9月24日(日)、秋の渡り観察会の最終日は、蜜ろうそくクラフトとバードウォッチングを融合したイベントを、月山ビジターセンターとの共催で開催しました。講師は山形県朝日町の蜜ろうそく職人であり、ハチをテーマにした環境学習を各地で開催している、ハチ蜜の森キャンドル代表の安藤竜二さんです。

当日は快晴で、珍しく鳥海山の山頂(正しくは外輪山)もはっきりと確認できるコンディションでした。タイトル通りハチクマの通過に期待を込めて観察し、ほどなくして2羽のハチクマが鳥海山の稜線を北から南へ通過していきました。双眼鏡でもはっきり確認できて、渡っていることを観察していただくことができました。蜜ろうそく作りパートでは、松ぼっくり等センスを発揮して作品を作っていました。講師の安藤さんからスライドを使ったハチたちの生態の解説もしていただき、貴重な蜜ろうがとれることは、ハチクマが日本に来て子育てをする際に、スズメバチなどの天敵をつかまえてくれるからだということを知ることができました。また、そんなスズメバチたちも、決して悪者ではなく、畑や森で農業害虫を捕まえるなど、絶妙なバランスによって環境が成り立っていることも理解してもらいました。参加してくれた皆さん、講師の安藤竜二さん、運営に携わってくれた月山ビジターセンターパークボランティアと鳥海イヌワシみらい館友の会の皆さんありがとうございました。

この日見られた鳥:ハチクマ3、ノスリ8、ハヤブサ2、ツミ1、ハイタカ1、トビ、クマタカ、カケス、キジバト、アオバト、ドバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラス 合計14種

※このイベントは(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団による助成を受けて開催されました。



○出張展示「やまがた環境展2023」

10月14日(土)～15日(日)の2日間、山形市の国際交流プラザビッグウイングにて開催された「やまがた環境展2023」に出展しました。

コロナウイルスの5類移行ごでは初めての開催となり、多くのステージイベントも復活してにぎやかな啓発イベントとなりました。ワッシーくんも急遽ステージでの「花笠踊り」に出演することになり、来場者といっしょに踊りながら会場を盛り上げました。

ブースではハンズオン展示で楽しみながら、猛禽類の保護について学んでもらうことができました。質問も多くいただき、関心の高い方が多い印象を受けました。引き続き啓発活動を続けて行きたいと思います。来場いただいた皆さんありがとうございました。



○見る！作る！鳥海山の野鳥とSDGs Part-1 「現代の名工に学ぶバードカービング&ウォッチング」

バードウォッチングと工作体験をして深く野鳥を理解するためのイベントとして、「見る！作る！鳥海山の野鳥とSDGs」全3回講座の1回目、バードカービング講座を開催しました。講師は”現代の名工”内山春雄先生です。

当日は鳥海高原でも、気温30度を超える真夏日となりましたが、屋外でのバードウォッチングに多くの子供達が参加してくれました。本当にありがとうございました。しかし、こんな気温もあってか、観察できた鳥類はとっても少なかったです…少しでも鳥類の特徴を知っていただくことができたかなと思います。

観察をしてからは、バードカービング&ペイント講座に移ります。”現代の名工”内山先生のナイフ捌きは、対象となる木材・素材を知り尽くしているからこそその削り方があることを知りました。鳥類のくちばしについて、その鳥が食べるエサの種類によって形状が違うことなどを教えていただき、見るだけでなく作ることで鳥の体と環境、食べ物の関係が深く関わっていることを知ることができたと思います。先生のおっしゃる通りバードカービングは、まさに”神の領域”を理解し、自らの手で再現することなのだと思います。カービング部門はさすがに高学年の子供達だけあって、削るスピードが早いうえに、初めてとは思えないほど鳥の形になっており、内山先生も驚いていました。午後からの絵付けもきれいに特徴をとらえてきたのではないかと思います。作業終了後は、内山先生がこれまで手掛けたカービングのお話や、海外の鳥類のことについてもお話いただきました。アホウドリの保護増殖のために作ったというデコイ(おとり)設置によって繁殖成功につながり、現在アホウドリは大幅に生息数を回復しています。内山先生のバードカービングが芸術の領域にとどまらないことに、驚きと尊敬の眼差しで見つめ、お話に聞き入っていました。低学年の絵付けもとってもかわいらしくできていました。親子で参加して夏の思い出になったのではないかと思います。内山先生、はるばる山形県までお越しいただき指導いただきましてありがとうございました。また暑い中、カービングに絵付けに参加してくれたご家族のみなさん、本当にありがとうございました。※このイベントは(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団による助成を受けて開催されました。



○祝！秋田市大森山動物園 開園50周年！

「ワッシーくん&オモリン クラフトDAY」

9月10日(日)、開園から50周年を迎えた秋田市大森山動物園で、50周年のお祝いイベントを開催しました。”タマネギ染のエコバッグ作り”と”ミツロウハンドクリーム作り”の制作体験ができるブースを設置し、来園者に楽しく猛禽類たちの現状を知ってもらうイベントとしました。初めての体験となった人も多かったようで、できたハンドクリームの使用感や香りに癒されていました。エコバッグもオリジナルデザインが好評で喜んでいただけました。リクエストで夏にやってほしい！というご意見も頂きました。イベント後半には、飼育員による腕のせ”ワシミズク”も登場し、制作と見学でどちらも目が離せない状況に・・・なんととても贅沢な時間でした。秋田市の方も多く参加してくれましたが、なんと他県からの来場者も多く、山形・宮城・新潟といかに大森山動物園が多くの人たちの憩いの場、学習の場として愛されているかを感じました。来場してくれた皆さん、大森山動物園のスタッフの皆様ありがとうございました。ニホンイヌワシの域外保全の発展を祈念しまして、お祝いを申し上げます。



○見る！作る！鳥海山の野鳥とSDGs Part-3 観察会「イヌワシの棲める森と木材利用のすゝめ」

10月21日(土)、酒田市に生息するイヌワシを観察して、イヌワシたちの生息環境について考えてもらうためのイベントとして開催しました。講師は過去に鳥海山におけるスキー場開発計画の際にイヌワシの生息について調査をした写真家の斎藤政広さんです。

当日の天候は降水確率も高く屋外での活動には厳しい状況でしたが、雨の止み間に観察ができることを願って、予定を大きく変更して開催することにしました。観察ポイントもやはり悪天候で、深いガスに覆われ見通しが全くきかない状況でした。環境の厳しいなかでも、イヌワシたちが代々生息し続けていることを感じてもらったのではないかと思います。参加者たちは、斎藤政広さんからガスがかかった状況を利用する撮影技術もあることを話のなかで聞いて驚いていたようです。センターに戻ってからは、30年前のイヌワシの記録などを政広さんからスライドを使って説明して頂きました。そしてこれからの自然との付き合い方も、政広さん流の穏やかでありながら、強いメッセージを受け取りました。

木工は寄木細工とボールペン作りを行いました。木を削る工程や樹種による色・硬さの違いなどそれぞれ工夫をして作りあげました。ここで使った木材が、イヌワシの暮らしを直接的に改善させるものではありませんが、改めて天然素材としての木材の良さを再認識していただくことで、今後の利用促進と、ひいてはイヌワシの生息環境の改善に繋がっていくことを期待したいと思います。講師の斎藤政広さん、参加してくれた皆さんありがとうございました。

※このイベントは(公財)安藤スポーツ・食文化振興財団による助成を受けて開催されました。



○「サイエンスアゴラ2023」に出場しました

11月18日(土)・19日(日)の2日間にわたって開催された、日本科学技術振興機構(JST)主催の”サイエンスアゴラ2023”に出場させていただきました。初出場ということで、来場者のみなさんとふれあいを楽しみに準備を整えていきました。当日は10時の開場でしたがほどなく満員状態になるという、国内最大級の科学の祭典であることを実感しました。2日間とも、来場者とゆっくりと話すことが難しいほど大盛況となりました。

新設した”ワシゴラスイッチ3D”と、”イヌワシ危機一髪”、”どんぐり落とし”など、多くの子供達が遊んで行ってくれました。説明文による解説だけでなく、野生動物たちの生態について皆さんがよく知っている『遊び』に落とし込んで理解してもらう事を狙いにした遊びながら学ぶハンズオン展示です。子供達は保護者と「これはイヌワシにとって脅威かもね？」と相談や議論をしながら展示を楽しんでいってくれました。

大量に用意したクイズの景品もあっという間になくなってしまったのですが、景品が無くてもクイズに参加してくれた来場者も多くて、大盛況となりました。

展示パネルもイラストメインで、子供達のみならず、デザインに関心の高い学生さんたちも興味深く見ていってくれました。

ワッシーくんも久しぶりの東京都での活動となり、都内の学校への広報効果が大きかったようで子供達が大勢会いに来てくれました。当館のブースを目的に来てくれた方もいて感激しました。

今回は初出場という事もあって、手探りで展示構成となりましたが、次回につなげられる来場者の反応や、他ブースでの出展内容など得るものが多かったです。この経験を次回に活かしたいと思います。来場してくれた皆さんありがとうございました。



"とびしまんちゅ流"鳥見のススめ



楽しく、そしてより良い鳥見をするための「小さな親切、大きなお世話」な”ひとり言”です(^; Have a nice Birding!

第6回「和名の大問題？」

日本鳥学会では日本鳥類目録を作成し公表して、これが日本の野鳥の公式的な記録として扱われている。現在は2012年に出た第7版が最新で、昨年9月に第8版が出る予定だったが、今年9月に延期になった。出版物は遅れることは日常茶飯事。本当に今年出るのか、どうか？

さて、この目録に記載されている和名が一般的に使われている(実際は提唱しているだけ)が、筆者はいくつかの和名について、どうもじっくりこない種がある。大きさの程度が和名についている種が少なくないが、つけ方に統一感がない種がいる。例えば、白鷺の仲間は大いものから「ダイサギ、チュウサギ、コサギ」。同じものにシャクシギ類がある。漢字で書くと「大・中・小」。これは国語的には音読みで「ダイ・チュウ・ショウ」と読むだろう。だとしたら、「コサギ」ではなく「ショウサギ」になるはずだ。訓読みなら「おお・なか・こ」なので、「オオサギ、ナカサギ、コサギ」となるはずなのに、「ダイサギ、チュウサギ、コサギ」だと音読みと訓読みが混ざっている。おかしくね？(一一)



「ダイ」と「オオ」 左：ダイサギ 右：オオムシクイ

鳥の場合、「オオヨシキリ、コヨシキリ」「オオチドリ、コチドリ」「オオムシクイ、コムシクイ」など「オオ○○○、コ○○○」と訓読みでついているのが多い

ので、サギなら「オオサギ、ナカサギ、コサギ」、シャクシギなら「オオシャクシギ、ナカシャクシギ、コシャクシギ」だべ？ダイサギに至っては、亜種ダイサギと亜種チュウダイサギがいて、チュウダイサギだと中くらいなのか、大きいのか、わがんねどれ！さらに亜種ダイサギは以前は、こともあろうに亜種オオダイサギと言われていた。まさかの訓読み+音読み！どだんだず！漢字で書くと「大大鷺」で、これを「オオダイサギ」読める人はまずいねべな！全くなんなんだか？もうちょっとましな(?)つけ方にしてくれ！国語を無視している！もっとも、鳥の和名は国語的につけなければならないという決まりがないのでしょうかないが、それにしてもちょっとどうよ？

ということで、筆者は最近ではダイサギを見たら「オオサギ」と言っている(^; 周りの人は詐欺にでも遭ったような顔をしているが…(実際には鷺には会っているし(^;)

ちなみに虫には「トゲアリトゲナシトゲトゲ」という冗談もほどほどにしてくれ！と言いたくなる虫がいる。恐れ入りましたm(_)_m



築川 堅治 (やながわ けんじ)
日本野鳥の会山形県前支部長。
中学二年生よりバードウォッチングを始め、現在はバードウォッチング・ツアーガイドや鳥類調査などを行っている。ライフワークは「飛鳥」。自称”とびしまんちゅ”春秋の渡りの時期を中心に年間約70日間、飛鳥に滞在し飛鳥の野鳥を調べている。著書「日本の離島の野鳥① 飛鳥」(わたりがらす出版)



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

編集後記

発行の遅れ、関係者の皆様、並びに発行を楽しみにしておられた読者さまに大変なご迷惑をおかけ致しました。この場をお借りしましてお詫び申し上げます。さて、当施設では、晩秋より公衆トイレの改修工事を実施し、女性側の和式トイレを1基洋式に更新することができました。尽力いただいた山形県みどり自然課様、株式会社モンベル様ありがとうございました。施設利用者のみならず、トレッキング等で利用の皆様も、ぜひご利用頂ければと思います。(本間)

編集後記&施設情報 鳥海イヌワシみらい館 1月~3月の開館情報

開館時間・・・9:00~16:30

入館料・・・無料

休館日・・・無し

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス : <http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

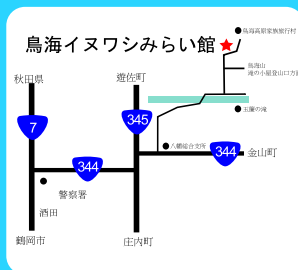
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.47 秋冬号

発行: 猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)